

先進地視察の結果について

視察内容：福知山市小学校水泳指導委託事業について

【所見・所感】

- インストラクターが指導に入るので、教員は評価・監視などの業務に集中でき、負担感の軽減や児童の安全の確保につながっていると感じた。
- 全校の日程について、教育委員会担当課が案の作成から調整までを行っており、事務負担が大きいと感じた。本市での導入に当たっては、調整方法について検討する必要がある。
- ドライバー不足や事業縮小などによるバスの確保が課題であるとのこと。
- 平日A Mを学校水泳授業枠としての確保が前提の民間委託であり、本市の場合、民間施設の受入がどの程度可能かモデル事業で検証する必要がある。
- 中学校はプールがない（水泳実技なし）とのこと。水泳授業のあり方も考えていく必要があると感じた。

コスト比較

プールの維持に係る総費用と民間スイミングスクール等を利用した際の総費用を算出し、1校あたりのプールに係る費用を比較することで、財政面での軽減効果を検証します。

(1) 学校プール維持に係る概算費用(1校あたり)

学校プールの維持に係る費用は、プール槽、ろ過装置やポンプ設備といった主要な設備等の改修費用のほかに水質維持管理費や光熱水費といった費用により算出します。大規模改修費については、過去の改修実績2件を参考に算出しています。

表1: プール維持に係る概算費用(1校あたり)税込

内 訳	費 用
大規模改修費（建設後50年を目安に実施）・・・a	112,989,096 円
修繕費（ろ材交換、水漏れ修繕、ポンプ修繕等）・・・b	150,713 円
水質維持管理費（設備使用前後点検委託費、薬剤費、水質検査費）・・・c	208,441 円
光熱水費・・・d	652,248 円
合計（1年間の想定費用）・・・ $A = b + c + d$	1,011,402 円
改修後30年間で係る費用・・・ $B = a + (A \times 30)$	143,331,156 円
改修後30年間で係る費用を1年間で割り戻し・・・ $C = B \div 30$	4,777,705 円

※ 修繕費・水質維持管理費・光熱水費(令和2～4年度、実績値等による)

※ 大規模改修費は青谷小学校(H23)・南中学校(H19)を参考に算出

(2) 民間スイミングスクール等を利用した場合の概算費用(1校あたり)

民間スイミングスクール等を利用した場合の1人あたり授業1回の金額は、スイミングスクール等からの見積りと、本市がバス事業者と単価契約している運賃等を基に算出しています。

民間スイミングスクール等を利用した場合の総費用は1校あたりの児童生徒数の平均244人で算出します。

表2: 民間スイミングスクール等を利用した場合の総費用(1校あたり)税込

内 訳	費 用
1人あたり授業1回の費用(使用料・指導料、バス経費)・・・A	3,239 円
1人あたりの年間費用($A \times 5$ 回)・・・B	16,195 円
1校あたりの年間費用($B \times 244$ 人)・・・C	3,951,580 円
今後、30年間でかかる費用($C \times 30$ 年)	118,547,400 円

※ 令和5年5月1日現在の鳥取市の児童生徒数 13,695人 \div 56校 \div 244人

(3)1校あたりのコスト比較

学校プールの維持に係る費用と民間スイミングスクール等を利用した場合の費用を比較すると、民間施設を利用した方が費用を抑えられ、1校あたりの年間費用は約 82 万円、30 年間の総費用で算出すると約 2,480 万円の経費削減につながる試算となりました。

表3:学校プールと民間スイミングスクール等を利用した場合のコスト比較:税込

内訳(1校あたり)	年間費用	30年間の費用
学校プール・・・A	4,777,705 円	143,331,156 円
民間スイミングスクール等・・・B	3,951,580 円	118,547,400 円
差し引き額(A-B)	826,125 円	24,783,756 円

民間スイミングスクール等を利用した場合に想定されるメリット・デメリット

民間スイミングスクール等を利用する場合のメリット・デメリットやデメリットに対する対応策について検討します。

(1) メリット

- ① 専門インストラクターの指導協力により泳力の向上が期待できる。
- ② 教員のスキルアップにつながる。
- ③ 天候に左右されず計画的な水泳授業ができる。
- ④ 学校プールの衛生管理に係る教職員の負担軽減が図れる。

(2) デメリット

- ① 民間スイミングスクール等までの移動時間がかかる。
- ② 民間スイミングスクール等までの移動時の安全対策が必要となる。
- ③ 時間割の調整が必要となる。
- ④ 民間スイミングスクール等までの移動時間や受入れ容量により民間施設等が利用できない学校ができる可能性がある。

(3) 考えられる対応策

- ・移動時間については、2単位時間を連続させて実施することで確保できると考える。
- ・児童生徒の安全のために、バスで移動する。
- ・天候に左右されないため、年度当初に作成した授業計画で水泳授業を実施できると考える。
- ・民間スイミングスクールを利用できない学校については、インストラクターの派遣や講習を行うなどにより教員の技術向上を図るほか、B&G等の公営プールを利用することなどが考えられる。

水泳授業民間活用モデル事業概要(案)

目 的

老朽化に対して更新費用が多額であることや、維持管理等について教職員の負担が大きいなどの多くの課題がある学校プールについて、今後のあり方の検討材料とするため、モデル的に民間の施設や指導者を活用した水泳授業を実施するもの

実施期間

令和7年6月上旬頃～10月下旬頃まで 祝日及び夏季休業期間を除く月曜日から金曜日

内 容

- ・学校から民間施設のプールまでバスで移動し、1時間程度の水泳指導を受ける。
- ・民間施設のプールで教員とインストラクターが水泳授業を行う。

実施施設

- ・福部ほっとスイミングスクール
- ・鳥取県営鳥取屋内プール
- ・サンフィッシュスイミングスクール鳥取
- ・フィットネスクラブ PAJA 鳥取
- ・フィットネス&スパ Zeroスポーツ
- ・智頭温水プール

実施校

- ・6校まで
※「プール築年数」「機械(ろ過装置)使用年数」「教職員作業負担(ろ過装置逆洗作業)」などの観点により事務局が選定。

指導回数

- ・年間4～5回（2コマ連続での実施を想定）
※移動、着替え等を含めた時間

移動方法

貸切バス(民間バス、スイミングスクールバス)

上記の内容は、予算や今後の学校、各施設との調整の中で変更になる場合があります。

民間スイミングスクール等との協議について

【協議での気づき・課題】

- 通常の営業時間に数レーン利用して実施する方法、休館日や営業時間前を利用して実施する方法などがあるとのこと。
- 数レーン使用して実施する場合、一般利用客への影響等を考える必要がある。
(使用可能レーンの制限、更衣室の利用など)
- 休館日を利用して実施する場合、従業員・指導員の労務管理面、委託料負担の増加などに課題がある。
- 事業者によっては、指導員の確保に課題がある。
- 民間施設等への移動について、バスの確保や乗車場所・待機場所に課題がある。
- 施設により、受入可能日時などの受入条件に違いがあり、各施設でモデル事業を実施し、施設ごとの課題や今後の事業拡大の可能性について検証する必要があると感じた。